

新町家のすすめ 建築実例 物件情報シート

建物名：T様邸

建物写真



建物概要

行政区：中京区

建築年：2019年4月

敷地面積：(任意)

建築面積：(任意)

延べ面積：(任意)

構造：木造

階数：2階建て

本体価格：(任意)

建築主：(任意)

設計者：株式会社林工務店

施工者：株式会社林工務店

設計コンセプト・ポイント

京町家と言えば、間口が狭く奥行きが長い、言わば『うなぎの寝床』が有名です。その『うなぎの寝床』を絵に描いたような敷地が今回の舞台であります。二世帯住宅 + 整体院が融合するため、住み分け重視の間取りを提案。奥行きが長い敷地に、奥行きの長い建物の為、明かり取りに中庭を設け、従前のお庭を忠実に再現しました。外観ファサードは町並みに溶け込みながら、どこか新しい新町家を表現しました。

該当する指針の欄に、具体的な内容を記入してください(取り入れていない指針の欄は空白で可)

指針1 まちに暮らす ～隣地の状況を踏まえて建物配置を計画する～



通り側の店舗（鍼灸院）の窓には面格子を使い、外からの視線は遮り、内からは開放感を感じられるように設計しました。(指針1-3)



指針2 場所になじむ ～地域特性や歴史を踏まえて設計する～



路地をイメージした玄関通路。(指針2-1)

既存の敷石を再利用しました。

京都は安土桃山時代に豊臣秀吉によって都市計画が行われ、狭い路地が造られるようになりました。京都では路地は昔から馴染み深いものです。

二世帯住宅と鍼灸院の合わせて3つの玄関がこの路地に集まっていますが、きれいにスッキリ収まる様に工夫しました。

京町家が残る旧市街地の街並みに合わせた外観を意識しました。(指針2-1)

その一つとして、つし二階に見えるようにして虫籠窓の意匠を取り入れました。

指針3 季節や自然を楽しむ ～季節や自然を楽しめるよう工夫する～



京都ならではのうなぎの寝床の土地なので、建物の中に中庭を配置し、風通りがよくなるように工夫しました。(指針3-1)

和室には雪見障子を使い、畳に座っても庭が楽しめるようにしました。(指針5-2)

サッシはハイブリッドのペアガラスを使用しました。また雨戸や雪見障子で日射が調節できるようにしました。(指針3-3)

指針4 大切に使う ～大切に長く使い続けられるよう工夫する～



長期優良住宅を取得し、メンテナンスしやすい家づくりを意識しました。

設備機器のメンテナンスもしやすいように、家の表に持ってきましたが、板塀で囲い景観に配慮しました。(指針4-1)

指針5 和の技を感じる ～伝統技術・技能をいかす～



床の間の床板には古材を利用し、新和風の床の間と仏間のある二間続きの和室を造りました。(指針3-2, 5-2)

屋根材には和瓦を使用しました。(指針5-1)

外部には面格子を取り入れました。